

「第1回 空港運営に関する有識者懇談会」議事概要

日時：平成23年10月27日（木）15：30～17：30

場所：道庁別館10階 企業局会議室

1. 高井副知事の挨拶（趣旨）

○ 道としては、国や航空業界の動きに適切に対処していくため、本懇談会におけるご意見を踏まえながら、本道における空港運営のあり方について、道の考え方を整理してまいる考え。委員の皆様には、今後の道内空港のあるべき姿について、活発な議論をお願いする。

2. 佐藤座長のご挨拶（趣旨）

○ 人口減少という我が国の特性を見た場合、交通の有り様を根本的に考えなければならない。この懇談会は、非常に重い、責任のあるもの。交通革命の先駆けを北海道からやるんだという志を持って是非ご議論いただきたい。

3. 各委員からの主なご発言

- 北海道では、高速交通体系において、基本的には、現在、航空だけに依存する形であるため、空港の持つ意味は非常に重要。
- 新千歳空港は、非常に競争力のある空港であるため、むしろ積極的に地域経済を強くするために使うという視点が重要。
- 北海道で一番避けなければならないことは、新千歳空港の民営化だけが進んで、他の空港が取り残されることであり、これは、最悪のシナリオの一つかもしれない。
- 黒字であるのは、新千歳空港だけであり、複数空港の一体経営ということ抜きでは、この問題を議論できないのではないか。
- 儲かる空港とそうではない空港との間をどのようにしていくか。
- 地方あつての札幌という視点で、守るべきものはしっかり守る必要がある。
- 議論の方向性としては、空港管理種別、エリア、単独のいずれかで考えるしかない。
- 様々な視点から、空港の価値を見ていく必要があり、採算性など、数字の議論だけでは、本道の空港のあり方を見失うのではないか。